第66号　2009.3.18
高知県立幡多けんみん病院発行
〒788-0785
宿毛市山奈町芳奈3番地1
TEL (0880)66-2222(代)
http://www.pref.kochi.jp/~hata

病院ニュース

# News Letter

## 電子カルテ スタート

経営企画課

当院では、平成二十一年三月九日、電子カルテによる診療をスタートしました。

電子カルテの準備期間は、電子カルテプロジェクトチームのメンバーはもちろん、院内の多くのスタッフが、連日何時間も続く会議に出席し、新システムの機能を活かした運用の見直しを行いました。マスタ設定、確認テスト等の作業も非常に多く、担当されたみなさんには苦労をおかけしましたが、一人一人が毎晩遅くまで作業を続けてくれて、滞りなく準備を進めることができました。また、電子カルテシステムをはじめ、各部門システムのメーカの方々にもご尽力いただきました。

関係する多くの方々のご協力により、無事本番を迎える事ができました。本当にありがとうございました。

電子カルテの良いところは、何よりも情報共有がしやすくなることです。紙のカルテの場合、必要な時に所定の保管場所まで閲覧に行ったり、取り寄せ依頼をする必要がありました。電子カルテの場合、多くの端末を院内各所に配置していますので、スタッフがどこにいても、すぐに患者さんのカルテを確認することができます。もちろん、診察中、患者さんにカルテの画面を確認していただきながら、分かりやすく説明を聞いていただくこともできます。

今までの紙のカルテは、個人別フォルダとして生まれ変わり、特定の検査結果や文書を綴じて保管します。

電子カルテと同時にスタートした、新しいシステムや機能などを一部ご紹介します。

端末の画面上で鮮明な画像を参照できるように、画像参照システムを取り入れました。これからは、フィルムを取り出すことなく画像を見ることが可能になります。

また、患者さんの誤認防止のため、入院患者さん全員に氏名・性別・生年月日・ＩＤ番号・ＩＤ番号バーコードを印刷した、リストバンドを手首に装着していただくことになりました。

検査や処置の前に、患者さんのリストバンドにあるバーコードをスキャナで読み込むことで、患者さんご本人であることを確認することができます。

電子カルテが開始して間もないため、まだまだ新しいシステムに不慣れなところもあります。患者さんをお待たせしてご迷惑をおかけする場合があると思いますが、ご理解・ご協力いただきますようお願いします。

今回のシステム切替えを新たなスタート地点とし、スタッフが働きやすいシステム、患者さんにより良い診療を提供できるシステムの構築を目指して、これからも日々取り組んで行きたいと思います。

# キズの手当について

## ～消毒はしないで洗いましょう～

皮膚科　髙田　智也

みなさんは傷ができたときにどのような手当をしていますか？

昔であれば赤チンやヨーチンを塗って、ぬらさないようにしておくのが一般的だったと思いますが、現在では消毒はせずに傷もきちんと洗うことが重要と考えられるようになりました。

ケガをして病院にかかったら、医者に『消毒はしないで、シャワーで洗ってください』と今までと逆のことを言われ、戸惑ってついつい今までと同じ手当てをしていた方もいると思います。

今日は現在の傷の手当ての考え方と、なぜ消毒しないのか、についてお話します。

傷ができた原因が外傷でもヤケドであっても、治るためには皮膚を構成する細胞が増えて欠損部をうめてくれなければいけません。ヒトの体にはもともと傷を治そうとする力が備わっていますが、“傷の環境”が悪いと十分にその力を発揮することができず、治るまでに時間がかかってしまいます。現在の傷の手当て（創傷治療）はこの傷の環境を最もよい状態に近づけることを目的に行われています。

理論的には、一番いい“傷の環境”とは傷ができる前の皮膚の状態です。傷ができると皮膚の水分や温度を調整する機能が損なわれるため、現在の創傷治療では保湿と保温に有効なはり薬（創傷被覆剤）や外用剤を主体に処置を行います。以前は傷を乾かす治療が主体でしたが、現在では傷は乾かさないで適度に湿った状態に保つほうが治りが早いと考えられています。口の中の傷が治りやすいことをイメージしてもらうと理解しやすいと思います。

治療の基本の第一が乾かさないことですので、使用する薬剤や創傷被覆剤は傷から出ているジュクジュクの液（滲出液）の状況などで使いわけをします。この滲出液の中には細胞の成長や増殖を助けてくれる成分（成長因子）が豊富に含まれており、傷が治る手助けをしてくれています。液体の状態でなければ働きが弱まってしまうので乾燥させてカサブタを作るのはやめましょう。また、カサブタの下が化膿していても見逃してしまう可能性があります。ただし小さな傷の場合はカサブタのままでも治りやすいので無理にはがす必要はありません。

次に消毒をしないで、傷を洗う理由を説明します。消毒の目的は細菌の数を減らすことですが、意外なことに皮膚の傷は消毒をしたほうが化膿しやすいことが明らかにされています。

消毒はまな板や食器など、細菌はいないほうが良いものについては有効ですが、皮膚にはもともと常在菌と呼ばれる菌がずっと住み着いており、異常に増殖しない限りは皮膚に悪影響を及ぼすことはありません。これらの細菌は皮膚の表面および毛穴のなかに住んでおりヒトと共存して生きています。傷ができたからといって、前から住んでいる細菌を取り除く必要はありません。

傷を化膿させないためには細菌の数を減らすのではなく、そのエサとなる物質を傷から取り除くことが大事です。エサとなるものにはホコリなどの異物や、壊されてしまった細胞、皮膚の垢（あか）などがあります。消毒薬には細胞を障害する作用があるため、逆に細菌のエサを増やしてしまう結果となり、化膿させやすくなります。傷が化膿

したときは抗生物質の投与が必要になり、消毒だけでは治りません。つまり、どのような状態でも傷は消毒をする必要がないといえます。

☆毎日傷を洗うことで細菌のエサを取り除くことができ、化膿を予防することができます。水道水で問題ありませんので、しっかり洗うように心がけてください。

## やさしい食生活

栄養科

昨日、何を食べたか覚えていますか。毎日、毎日のことで忘れてしまいますね。でも、毎日3食きちんと食べることは、とても大切です。

食べ方を普段、意識することは、なかなかないと思いますが、自分の食べ方を少し思い出してみて下さい。

食べ方で大きく３つに分けられます。

１　腹で食べる

腹で食べるとは、どんな物でもいいから、おなかいっぱいになればいいという考え方です。腹で食べてもエネルギーはとれますが、たんぱく質、ビタミン、ミネラルといった大切な栄養素は欠乏し、栄養欠陥に陥ります。

２　口で食べる

口で食べるとは、おいしい物を、栄養・健康のことなどは無視して、嗜好だけで食べることで、栄養の偏りから病気になることもあります。

３　頭で食べる

頭で食べるとは、栄養の正しい知識をもとにしてバランス良く、おいしく潤いのある考えた食生活をするということです。

偏食は食事のバランスを悪くし、野菜不足はビタミンＢ２と繊維不足になり、大腸癌、肥満のもとになります。塩の摂り過ぎは、高血圧に、脂肪や糖分の摂り過ぎは肥満、糖尿病など、様々な病気を引き起こす原因になります。好き嫌いしないようにして、いろいろな食品を組み合わせて食べましょう。

## 【鰆の幽庵焼き】

春になると香川県では、鰆をそのまま一本買ってきて、寿司、刺身、煮魚などの鰆料理を作り、客をもてなす習慣があります。これをその地方では、春祝（はるいお）と呼んでいます。

さわらは、春先の産卵前のものは、脂がのりおいしいと言われています。このことから魚へんに春と書きます。身質がやわらかく淡白で癖のない白身魚です。

みなさんも、鰆料理を作ってみてはどうでしょうか。

**☆材料☆（４人分）**

鰆切り身・・・・４切れ
ゆず　・・・・１個
酒　・・・カップ１／２
みりん　・・・カップ１／２
濃口しょうゆ・カップ１／２
七味　・・・・少々

**☆つくり方☆**

①ゆずは薄切りにし、混ぜ合わせ調味料と共にバットに入れる。

②鰆を15分ほど①に漬け込みます。

③弱火でじっくり、漬け汁をハケでぬりながら焼く。

※オーブンで焼く場合、220℃に熱したオーブンで10～13分ほど焼く。

**病院の理念**

1．幡多けんみん病院は幡多地域における医療の中核となる病院として、地域の他の医療機関や保健・福祉・介護施設などとの連携のもとに、地域で完結できる、良質な医療の提供を目指します。
2．地方公営企業として、地域医療をとおして地域の福祉の増進を目指しながら、企業としての経済性を発揮する運営をおこないます。

医療機関を受診される際は、**お薬の内容が分かるもの（薬剤情報提供書・お薬手帳など）**を持って行くようにしましょう！

**私たちの目指す医療（基本方針）**

1．正確で間違いのない医療
2．十分に説明をする医療
3．透明性を大切にする医療
4．患者さんの希望を大切にする医療

## チューリップ

編集スタッフ

少しずつ暖かくなって、春に色とりどりの可愛らしい花を咲かせるチューリップの季節になりました。チューリップの名前の由来は、イスラム教徒が頭に巻くターバンと似ているところから名づけられたといわれています。十六世紀トルコに駐在していた神聖ローマ帝国の大使がチューリップを見て「何の花か?」と尋ねたところ、イスラム教徒のトルコ人は自分の頭のターバンを指して、「チュリッパ（ターバン）のような形の花だ」と答えました。大使はそれを花の名前だと勘違いしチューリップの語源になったと言われています。

チューリップの花言葉は色によって様々です。

赤・・・・・「愛の告白」
ピンク・・・「愛の芽生え」
紫・・・・・「永遠の愛」
黄色・・・・「望みなき愛」
白・・・・・「失恋」

いずれも「愛」を伝える花言葉です。昔、ペルシャ人は求婚する際に赤いチューリップを贈り、思いを伝えました。バラの花ほど情熱的なイメージはありませんが、可愛らしく清々しいイメージのチューリップは、春のやわらかな日差しと穏やかな雰囲気にとてもぴったりとくる花のような気がします。

春は、入学や卒業といった出会いと別れの季節です。花を贈ったり、もらったりすることも多くなる季節です。そんな時、思いを込めたチューリップを贈ってみませんか。赤やピンクのチューリップを贈ることで、春の暖かさのように、ほんのりと優しく甘酸っぱい気持ちになれるかもしれません。

**2月の統計**

| | |
|---|---|
| 外来患者数 | 12,820人 |
| 新外来患者数 | 1,721人 |
| 紹介患者数 | 350人 |
| 新入院患者数 | 459人 |
| 退院患者数 | 473人 |
| 平均在院日数 | 14.82日 |
| 救急車・時間外患者数 | 1,225人 |
| 手術件数 | 194件 |

**幡多けんみん病院における患者さんの権利**

1．患者さんは、良質な医療を平等に受ける権利をもっている。
2．患者さんは、医療を受けるにあたり、十分な説明を受ける権利をもっている。
3．患者さんは、プライバシーが守られることを期待する権利をもっている。
4．患者さんは、自分の希望を伝え、医療に参加する権利をもっている。
5．患者さんは、人間としての尊厳が守られることを期待する権利をもっている。